

1 学校と地域の連携・協働の必要性について

(1) これからの社会：加速度的な変化

- ・ 少子高齢化
- ・ 地域社会の教育力の低下
- ・ グローバル化 ・ 技術革新
- ・ Society5.0

今後の社会の変化

- ・ 2030年：65歳以上は人口の3割
- ・ 生産年齢人口：総人口の約58%に減少
- ・ 今後10～20年程度：半数近くの仕事が自動化
- ・ 2045年：人工知能が人類を超える

(2) これからの子供たちに求められること

○高い志や意欲をもつ自立した人間 ○他者と協働しながら未来を創り出し課題を解決する力

【必要な資質・能力を育むためには】

○「地域とともにある学校」への転換

- ・ 地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む。

○「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築

- ・ 学校、家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく。

○「学校を核とした地域づくり」の推進

- ・ 学校を核とした協働の取組を通じて地域の人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る。

(中教審「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」H27、12)

2 中教審（答申）以降の流れ

(1) 新学習指導要領（H29年告示）「社会に開かれた教育課程」の実現

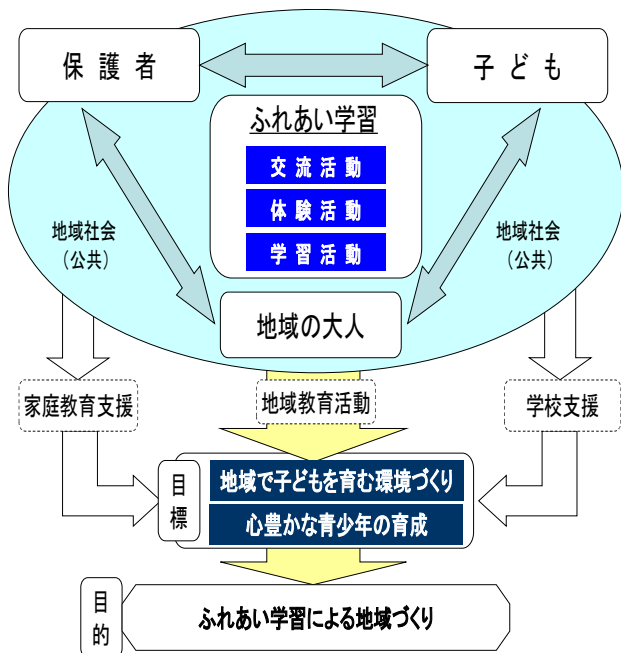
- ・ 学校と社会との理念の共有：よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る

(2) 第3期教育振興基本計画（H30.6）

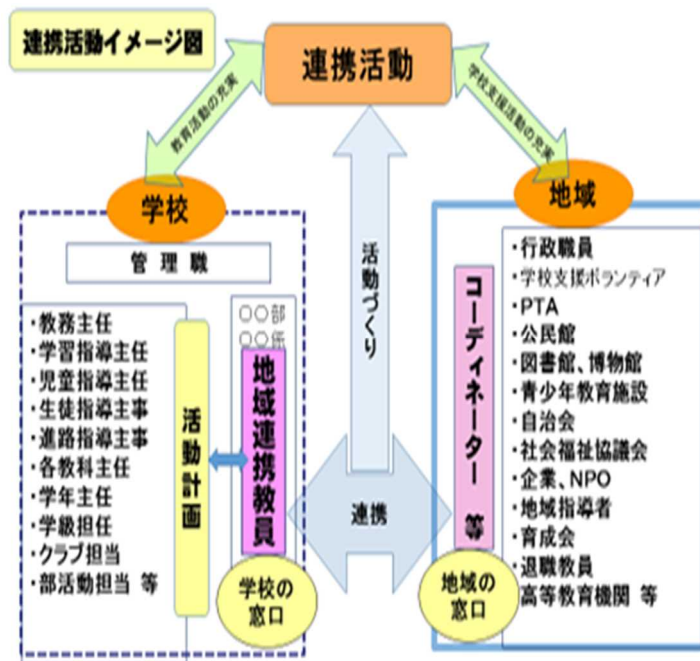
- ・ 基本的方向性1「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」

3 本県の取組

(1) ふれあい学習の推進（H13～）

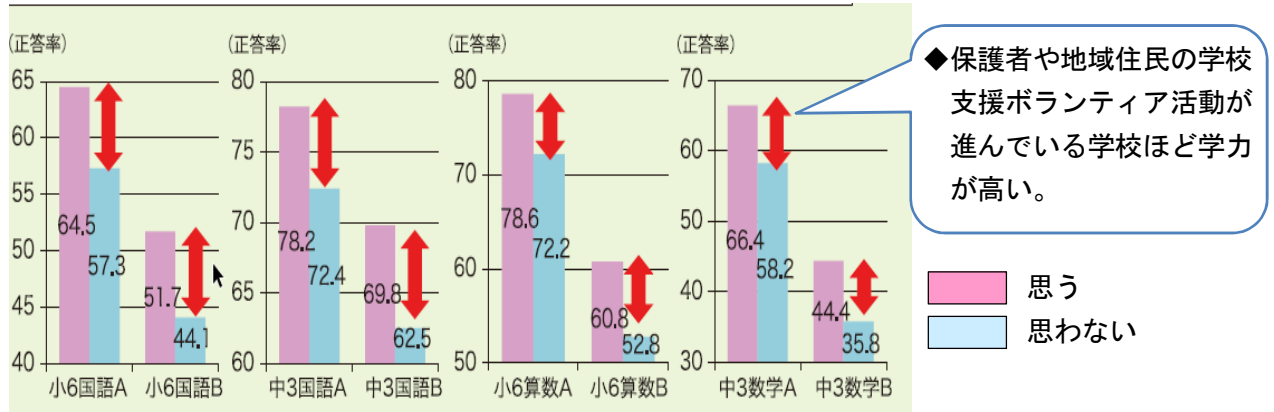


(2) 地域連携教員の設置（H26～）



(1) 学力に影響を与える要因分析に関する調査研究（H25 全国学力テスト結果活用、お茶の水女子大学）

◇地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多いと思うか。



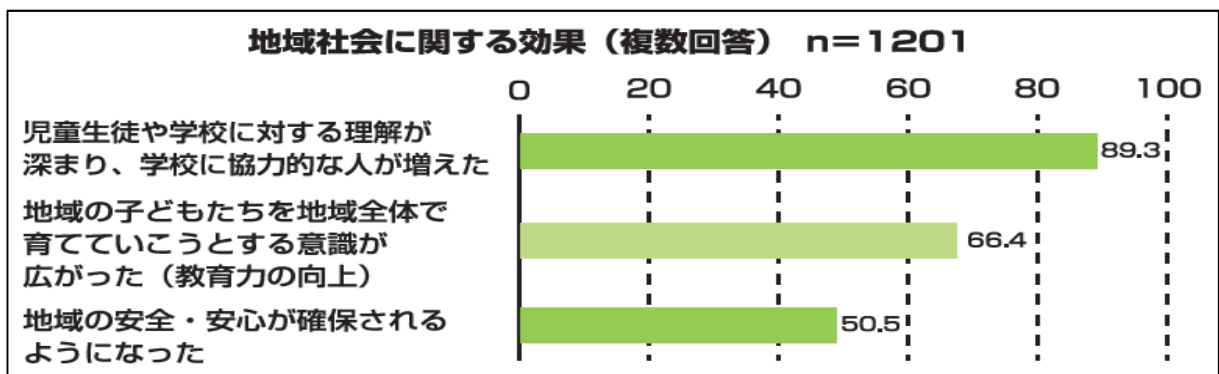
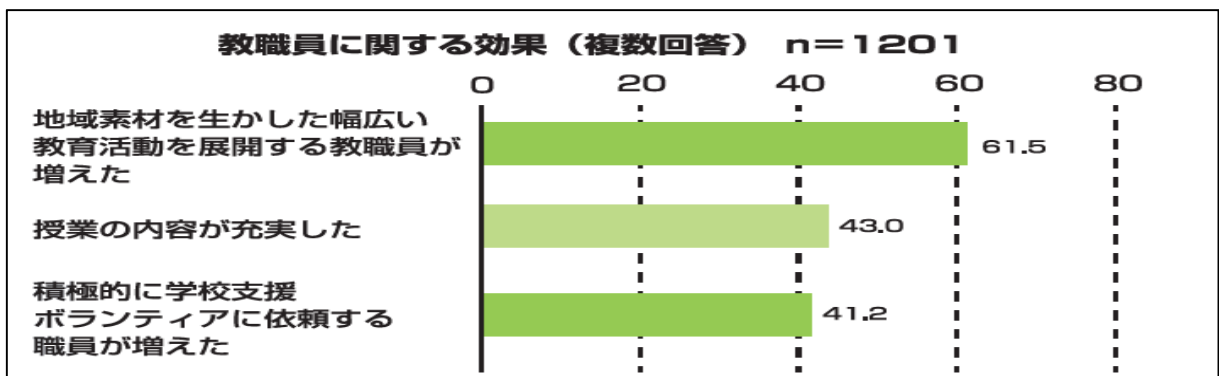
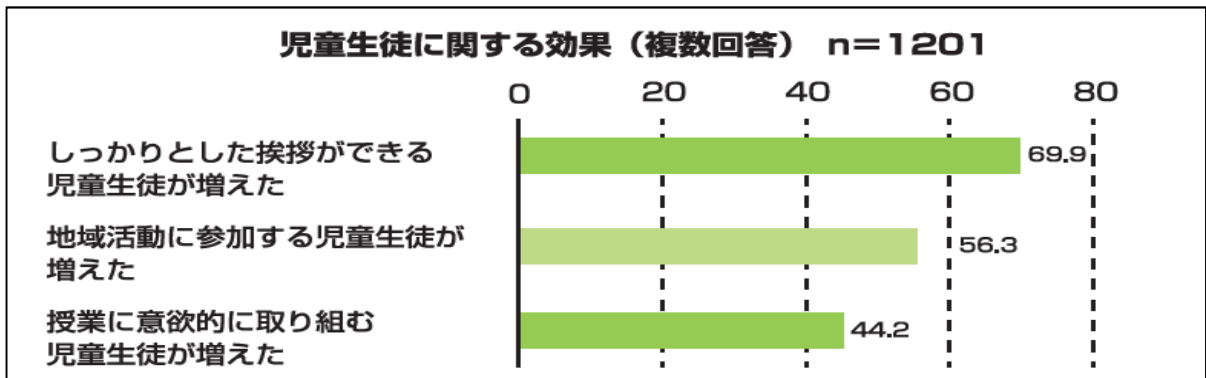
《参考》

◆保護者や地域の人々との協働による取組は学校の教育水準の向上に効果があった小学校：95%（H30 全国学力テスト）

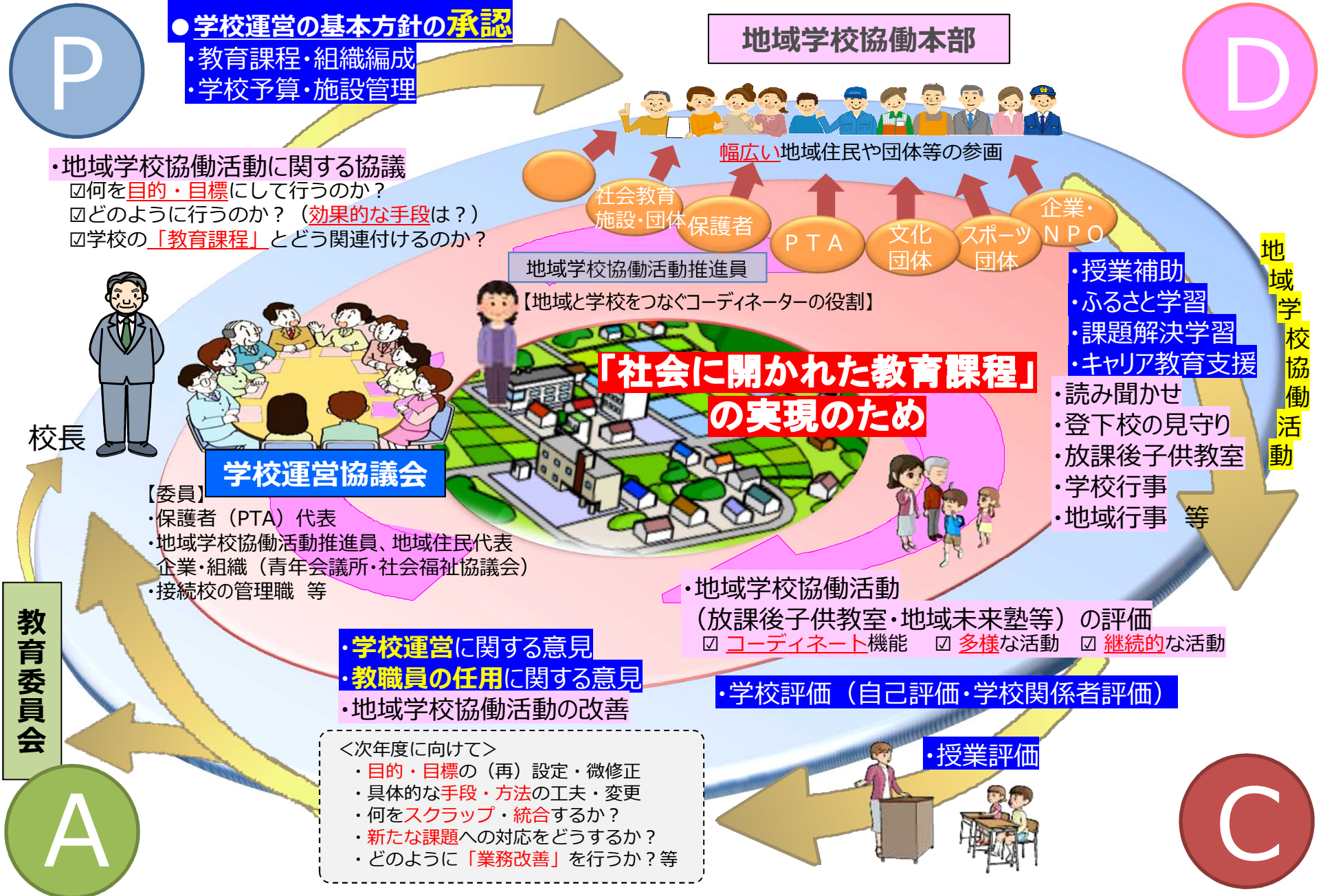
◆地域住民による学校支援活動により、教員が授業や生活指導により力を注ぐことができた学校：70%（H27 文科省調査）

(2) 地域連携が学校経営に与える効果に関する調査研究（栃木県総合教育センター H27. 3）

調査対象：県内公立小・中学校及び県立学校の校長及び教頭（副校長）



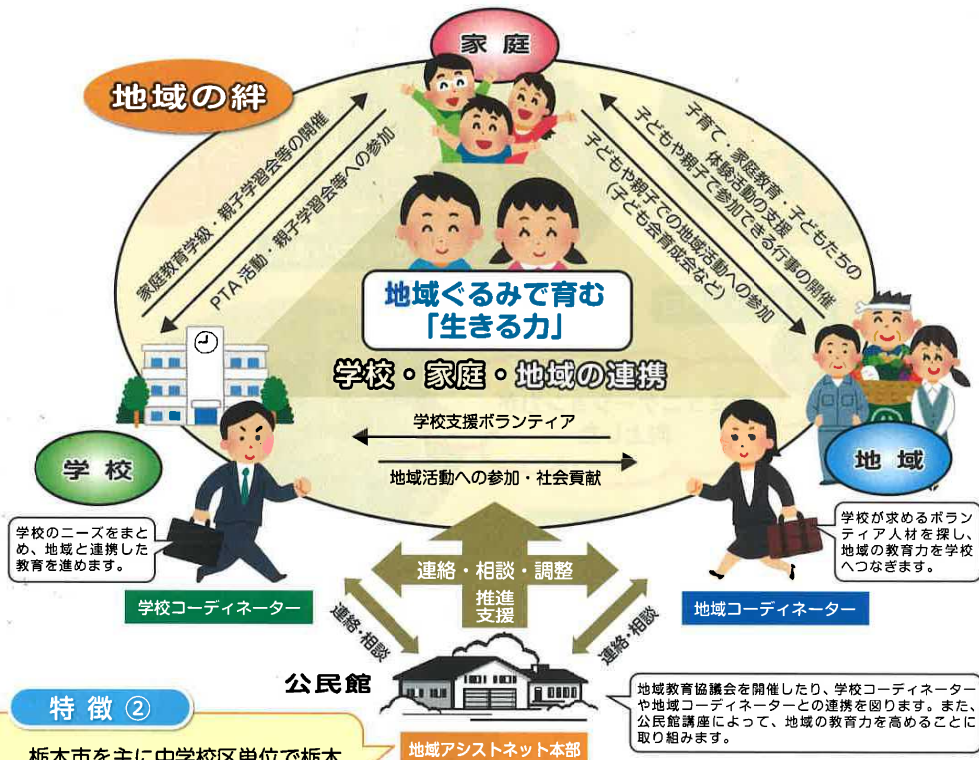
「社会に開かれた教育課程」の実現のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



とちぎ未来アシストネットの内容は…

特徴①

市内すべての小中学校及び学区に「学校コーディネーター（学校職員）」、「地域コーディネーター（地域住民）」を配置し、それぞれが連携して学校や地域でのボランティア活動の支援を行います。



特徴②

栃木市を主に中学校区単位で栃木中央、東陽、皆川、吹上、寺尾、大平、藤岡、都賀、西方、岩舟の10エリアに分け、各エリアの公民館に「地域アシストネット本部」を設け、学校や地域、公民館の代表者で構成する「地域教育協議会」を設置して各エリア内での事業の推進を図っています。

特徴③

全市域対象の「アシストネット推進委員会」を設置し、各エリアの取り組み状況についての情報交換や全市に関わる成果や課題の検証等を行い、更なる推進への方針を示しています。

アシストネット推進委員会の様子

「とちぎ未来アシストネット」に関する問合せ先

- 生涯学習課 ☎ 21-2488
- 栃木公民館 ☎ 24-0352
- 大宮公民館 ☎ 27-0073
- 皆川公民館 ☎ 22-1812
- 吹上公民館 ☎ 31-1792
- 寺尾公民館 ☎ 31-0002
- 国府公民館 ☎ 27-3002
- 大平公民館 ☎ 43-5231
- 藤岡公民館 ☎ 62-4321
- 都賀公民館 ☎ 27-5050
- 西方公民館 ☎ 92-0316
- 岩舟公民館 ☎ 55-2500

栃木市型教育システム

とちぎ未来アシストネット

とちぎ未来アシストネットとは…

学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に「学校支援（教育の充実）」や「地域の絆づくり」等を図る教育システム（平成24年度より導入）

生涯学習を基盤とした社会の実現を目指して

とちぎ未来アシストネットの構築

とちぎの輝ける未来へ



“地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育むこと”を核に、学校・家庭・地域の連携を充実させることにより、「学校における教育活動の充実」「社会教育における成果の活用の充実」「家庭教育支援の環境の充実」「地域コミュニティの再構築・地域の絆づくり」等を進めることが、とちぎ未来アシストネットの構築です。

これにより、生涯学習を基盤とした社会における“ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり”の実現を栃木市は目指しています。

栃木市教育委員会

とちぎ未来アシストネットで広がるボランティアの輪

「とちぎ未来アシストネット」の活用により、
多くの地域住民が学校支援ボランティアとして活躍されています。また、児童・生徒も積極的に地域の行事に参加し、貢献活動を行っています。

学習支援
ボランティア

地域行事
への参加



地域から学校へ

学校から地域へ



読み聞かせ



放課後の学習



食事マナー



地域まつり運営

個別学習や
体験学習が
充実した

広い世代での
協働に繋がった

コミュニケーション力が
向上した



ミシン



邦楽



カッター・彫刻刀



地域行事参画



かけ算九九

先生の指導に
余裕ができた



和太鼓



とちぎ未来
ASSISTNET



小物づくりブース開設



ディスプレイ作成



花壇づくり

大人と子ども
大人と大人の
新しい出会いの
場となった



植物栽培

ふるさとを
大切にする心が
育まれた



観光案内

環境整備
ボランティア

地域への
貢献活動



登下校安全見守り

学校と地域の
信頼関係が
深まった



除草作業

生涯学習の成果を
発表する場
となった



子ども学芸員

高等学校と地域の連携・協働の取組「ゆずも学」

栃木県立茂木高等学校

1 活動の目的

○地域や行政等と連携・協働した活動を通して、地域社会の課題に気付き、解決策を考えることで、社会とのかかわりや自分の将来について視野を広げる。

2 連携している団体等

- ・茂木町内保育所 ・栃木県立益子特別支援学校 ・茂木町教育委員会
- ・茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」 ・茂木町内企業・事業所
- ・茂木町議会事務局 ・茂木町企画課 等

3 取組の内容

○生徒が自らの進路目標を設定し、進路実現に向けて行う学校独自の取組。町長や教育長、町議会議員等との意見交換等を通し、町の未来や今後の自分を考えるとともに、ワークショップやフィールドワークを通し、進路と地域社会のつながりについて考える。

- ・図書館で（保育園児等へ）の読み聞かせ活動 ・小学生への学習支援ボランティア
- ・茂木町百人一首大会の企画・運営 ・道の駅と連携したイベントの開催 等

【下野新聞 2017年6月21日掲載】

進路実現へ君は今何を学ぶ？

校外活動「ゆずも学」開講

本年度から茂木高

町内施設、産業など研究

【茂木】茂木高（赤羽一記校長）は本年度から、1、2年生を対象に地域での校外活動を通して進路実現へ努力する力を養う「ゆずも学」の取り組みを始めた。総合学科の教育課程に正式に盛り込み、町の協力で町内施設や地域活動の研究、発表などに取り組む。開講式が16日に開かれ、大内信久教頭は「何のために、何に向かって何を学ぶべきかを考え、自分の将来像を明確にしてほしい」と生徒に呼び掛けた。

（柴山英紀）



社会人の講師（右）に仕事のやりがいなどを質問する茂木高の生徒

ゆずも学開講のきっかけについて、準備を担当した田村絵美教諭は「生徒の進路への意識や目標に向けて頑張る力を養う必要性を感じていた」と説明。これまで地域での校外活動が、町内小中学生の学習支援など一部の希望生徒に限定されていたこともあり、これらを複合させた実践的なカリキュラムを作成した。

田村教諭は「過疎化が進む町で頑張る人々の姿や社会について知ること、自らの進路実現に向けてのモチベーションを育んでほしい」と授業の効果に期待を寄せている。

平成29年度

茂木高校『ゆずも学』レポート

【ゆずも学とは？】

茂木高校では、「地域理解」や「体験重視」の教育に力を入れ、生徒たちが自分と社会のつながりに目を向け、希望の進路を実現するための力を育てています。1月11日には、生徒の職業観を育むキャリア教育に尽力し功績を挙げたとして、文部科学大臣賞を受賞しました。

「ゆずも学」はそうした教育の一環として、校外活動や講演会、ワークショップなどを行うものです。今年度は1年生と2年生が、年間を通してさまざまな活動にチャレンジしてきました。



1年生 6月16日【職業人の講話 ～働くって?～】

ツインリンクもてぎやタカギ商店など、町内から9の事業者を招き、それぞれの仕事についてクラスに分かれてお話を聞きました。

生徒たちは仕事内容だけでなくライフスタイルの面などからも積極的に質問し、自分が社会に出る時のイメージをより具体的なものにしていました。



▲タカギ商店



▲ツインリンクもてぎ

10月27日【フィールドワーク】

クラスごとに、「美土里館」、「ツインリンクもてぎ」、「道の駅もてぎ」、「ふみの森もてぎ」の各施設を訪問し見学を行いました。

職員の方の講話では、施設の成り立ちや地域にどのように貢献しているか、さらには運営上の苦労などを聞きました。

生徒たちは町の振興のために働く人々の姿を見て、将来の進路の参考にするとともに、自分が社会の中で生かせる能力とは何かについてもあらためて考えました。



▲美土里館



▲ツインリンクもてぎ



▲道の駅もてぎ



▲ふみの森もてぎ

1月26日【課題研究発表会】

各クラスの代表グループが、フィールドワークで訪れた町の施設について、課題点や活用法などをスライドやポスターを使って発表しました。

グループで協力し考察することで、地域を支える職業への理解を深め、進路選択の足掛かりとしました。



▲スライド発表



▲ポスター発表

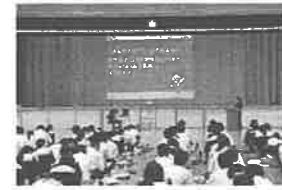
2年生 9月22日【議会を知ろう】

議会の仕事内容や役割について、議員の皆さんからスライドを使った説明を受けた後、生徒からの質問タイムを設けました。

質問タイムでは、町の課題点や議員という仕事の難しさなど、生徒からはさまざまな疑問が出ていました。

またその後は、「茂木高校と真岡鐵道と芳賀郡経済の密接なかかわり」のテーマで、議員の方を交えた討論会も行いました。

議会について学ぶ中で、生徒たちは社会の一員として地域をより良くしていくために、自分たちにこれから何ができるのかを考えました。



▲スライド説明



▲討論会



▲生徒による質問タイムと回答の様子



11月17日【教育長の講話 ～社会に出よう～】

澤村教育長より、学生時代に体操選手として活躍し、その経験を経て教員となった体験談を聞きました。

講話を通して、生徒たちは自分の適性に合った仕事や、将来どんな場所で活動したいかについて考えました。

教育長は、「広い視野を持って自ら学び体験することが、将来を拓くための自信やリーダーシップにつながる」と話し、進路選択を前にした生徒たちは真剣に耳を傾けていました。



1月18日【進路研究発表会】

自分が目指す職業に関する新書を読み、その職業が社会にどう貢献しているのかなどについて、生徒一人一人が発表しました。

ここではお互いの考察を聞くことで、自分が就きたい仕事だけでなく、幅広い職業について知るきっかけとなりました。

また、生徒たちはどうすれば希望の進路を実現していけるのかについても、活発に意見を交わしました。



▲クラスメイトの発表についても熱心に考えていました



生徒の感想

一人一人目指しているものや夢が違うということ知る、良い機会になりました。高校での勉強を通してたくさんの人たちの考えを吸収し、将来の夢へつなげていきたいです。

さまざまな職業の方のお話から、仕事の大変さややりがいなどを学びました。自分が生きていくためにも必要不可欠なことなのだと、あらためて思います。

希望の進路を実現するために、自分ができること、身に付けなくてはいけないことを考えました。専門技術など、もっと積極的に身に付けていきたいです。